

Agriculture

営農

農業知識広場

農へのこだわり

〜知っててよかった〜

木村一成
指導員



平成27年産米も「全量出荷」をスローガンに米検査を行っています。全量出荷にどうぞご協力ください。

「スベリヒユ(スベリヒユ科)」の特性と対策



【特性】

スベリヒユは、畑地や樹園地、庭や道端などに生える夏草の強害雑草の一つです。種子で繁殖し春から夏にかけて多数発生し株元を中心に盛んに分枝しながら地面を這い、上部は斜めに立ちながら地面に広がります。

花は小さい株のうちからでも開花し、6〜9月まで開花を続けます。枝の先に葉が集まり、その間から3〜5個の黄色の小花に種子を付け一果のなか

には50〜70個入っており、1個体の種子の生産数は多いもので2万粒に達します。年に3〜4世代を交代でき、種子は土壌中に4年以上生存します。



スベリヒユの仲間には、花を楽しむ「ハナスベリヒユ(ポーチュラカ)」という品種もあり、東北地方では食用に栽培されている地域もあります。また、薬用植物として「バシケン(馬歯ケン)」とよばれ、虫さされには生の葉の汁をまた、全草を煎じて利尿などの効果があるともいわれています。

【防除のポイント】

出芽深度が浅いため、出芽前に土壌処理型除草剤を用いて防除するか、生育初期に選択性の茎葉処理型除草剤を用います。

ポイントは、出芽後に比較的早くから開花結実するので、早めに中耕または除草剤を散布し、種子を圃場内に落とさないようにすることが重要です。

耕種的防除としては、生育初期は草かきでの防除や中耕が有効です。中耕では、耕した後に茎葉の一部が地上に露出していると再生するので、土壌中に完全に埋め込みます。生育が進んだ草は、手取りまたは草かきで除草し、圃場外に運び出します。ポーチュラカは乾燥に強く、圃場に放置すると、ふたたび活着して結実するので、注意しましょう。

今月の農作業





水稻の土づくり肥料の施用

【けい酸の働き】

特に葉の表皮細胞に沈積して、ケイ化細胞をつくり、組織の強化や害虫の被害、いもち病菌の侵入を防ぐのに役立ちます。

【鉄の働き】

水稻の栄養としての働きのほかに、主として硫化水素ガスなどから根を守るために役立ちます。

水稻用土づくり資材	施肥量(10a当り)	特徴
 土肥これだけスーパー (粒状20kg)	4〜6袋	石灰・苦土や水稻に必要な鉄・ケイ酸のほか微量要素・腐植を含む総合土づくり肥料です。土づくりに最適なJAオリジナル肥料です。
 粒状ミネラルG (粒状20kg)	5〜7袋	水稻に必要なケイ酸と鉄分をはじめ微量成分をバランスよく含んだ土づくり肥料です。ケイ酸は稲を強くし、鉄は根を有害なガスから守ります。
 粒状ミネテツエース (粒状20kg)	5〜7袋	鉄分を多く含んだ土づくり肥料です。有害なガスから根を守り、秋落ちやゴマ葉枯れ病の軽減効果があります。
 粒状ケイカル (粒状20kg)	5〜7袋	ケイ酸分を多く含んだ土づくり肥料です。ケイ酸は稲体の主成分で茎葉を強くすることで病害虫に対する抵抗性が強くなり、倒伏しにくくなります。